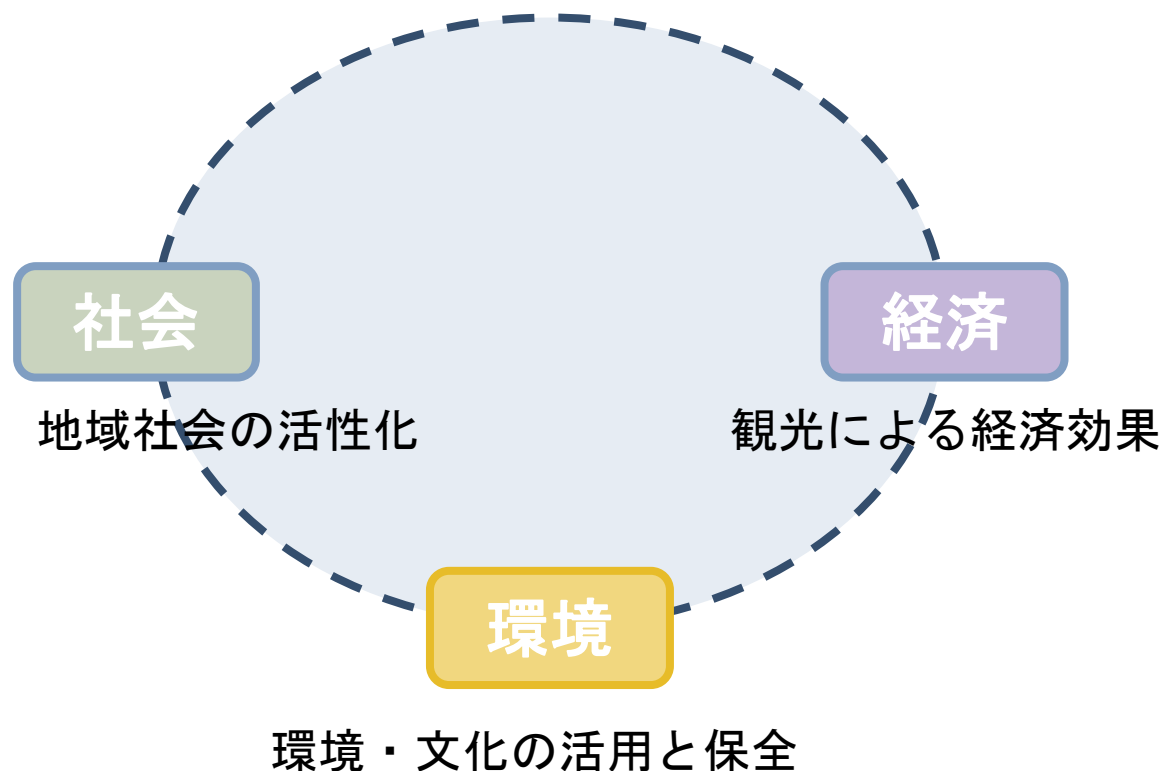


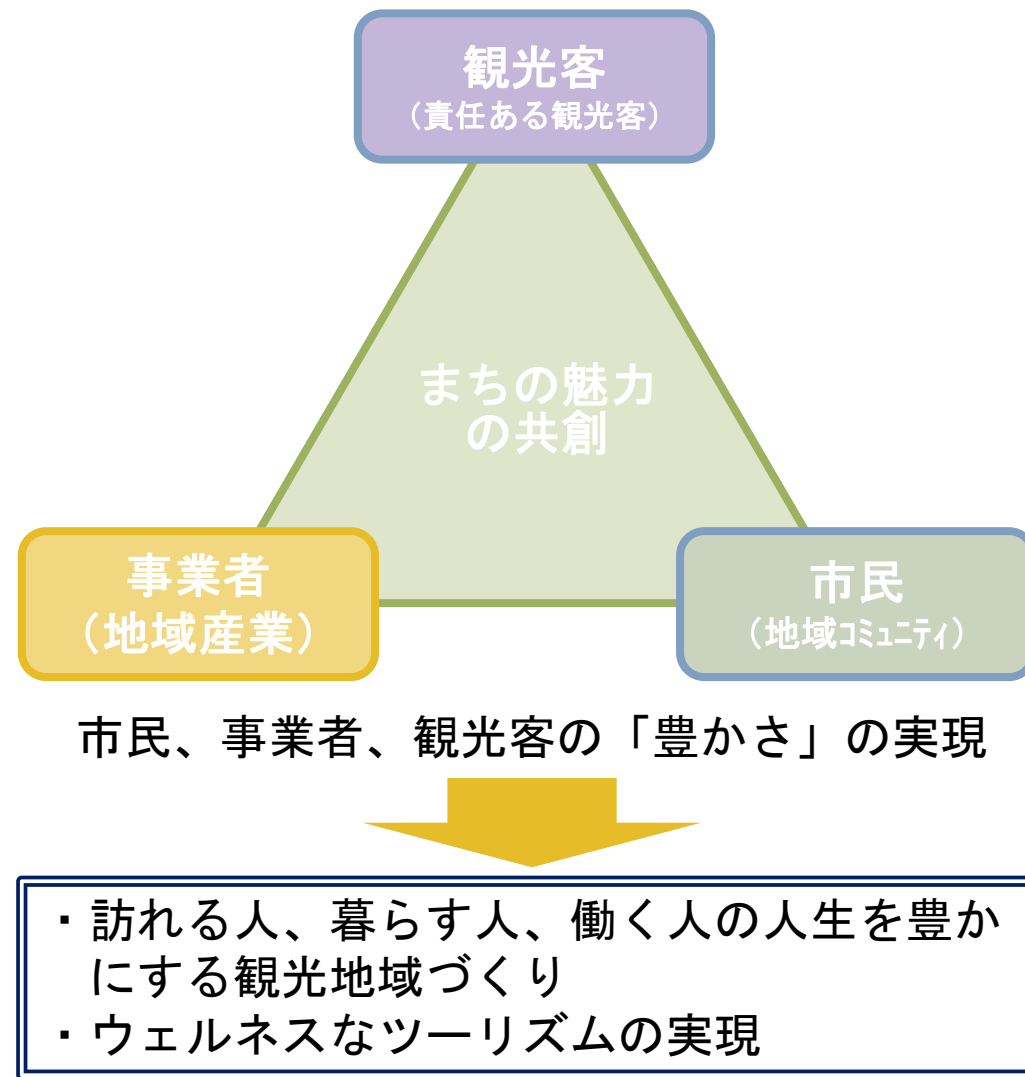
持続可能な観光の推進にむけて

◆持続可能な観光（サステナブルツーリズム）とは？

「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の経済、社会、環境への影響に十分配慮した観光」（UNWTO）



《本市の目指す観光の姿》



◆那須塩原市の持続可能な観光に対する取組

那須塩原市観光マスタープラン

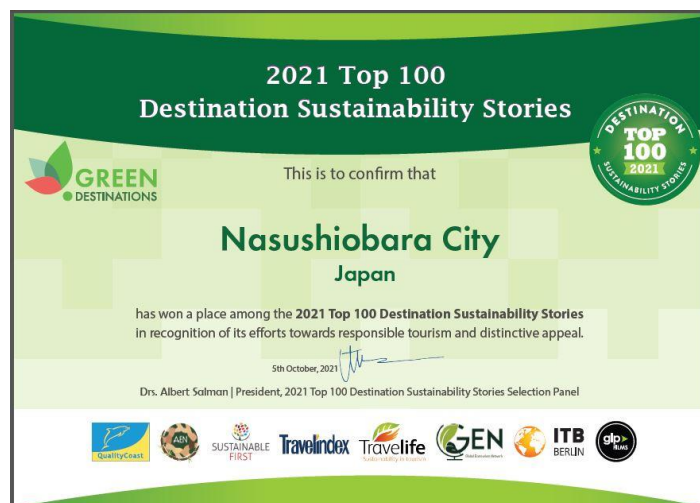
基本方針 1 持続的かつ競争力のある観光地域づくり

施策 3 SDGSツーリズムの実現

- ・日本版持続可能な観光ガイドラインをもとに、那須塩原エリアの持続可能な観光地マネジメントに取り組む。

- ・令和3年度『日本版持続可能な観光ガイドライン』モデル地区へ選出
- ・国際的な認証機関であるGreen Destinationsの『世界の持続可能な観光地TOP100選』に選出

- ・那須塩原市観光マスタープランの着実な推進
- ・新たな財源の導入検討（レスポンシブルツーリズム）



新たな財源導入の検討

1 新たな財政需要

視点① 明日の日本を支える観光ビジョン

『観光は「地方創生」への切り札 成長戦略の柱』として位置付け

◆訪日外国人旅行者

4,000万人（2020年） ➤ 6,000万人（2030年）

◆訪日外国人旅行消費額

8兆円（2020年） ➤ 15兆円（2030年）

◆地方部での外国人延べ宿泊者数

7,000万人泊（2020年） ➤ 1億3,000万人泊（2030年）

◆日本人国内旅行消費額

21兆円（2020年） ➤ 22兆円（2030年）



訪日外国人旅行者や日本人国内旅行消費額の増加を地方創生につなげていくためには、観光客の地方への訪問の増加を図ることが必要であり、観光客の受入れに向けた環境整備や観光プロモーション等といった新たな財政需要が生じている。

視点① 明日の日本を支える観光ビジョン

【参考】那須塩原市観光マスタープランにおける数値目標（KPI）

◆延べ宿泊者数

917,970人（2019年）	➤	1,000,000人（2027年）
-----------------	---	-------------------

◆旅行消費額（宿泊）

19,186円（2019年）	➤	25,500円（2027年）
----------------	---	----------------

◆旅行消費額（日帰り）

5,357円（2019年）	➤	8,900円（2027年）
---------------	---	---------------

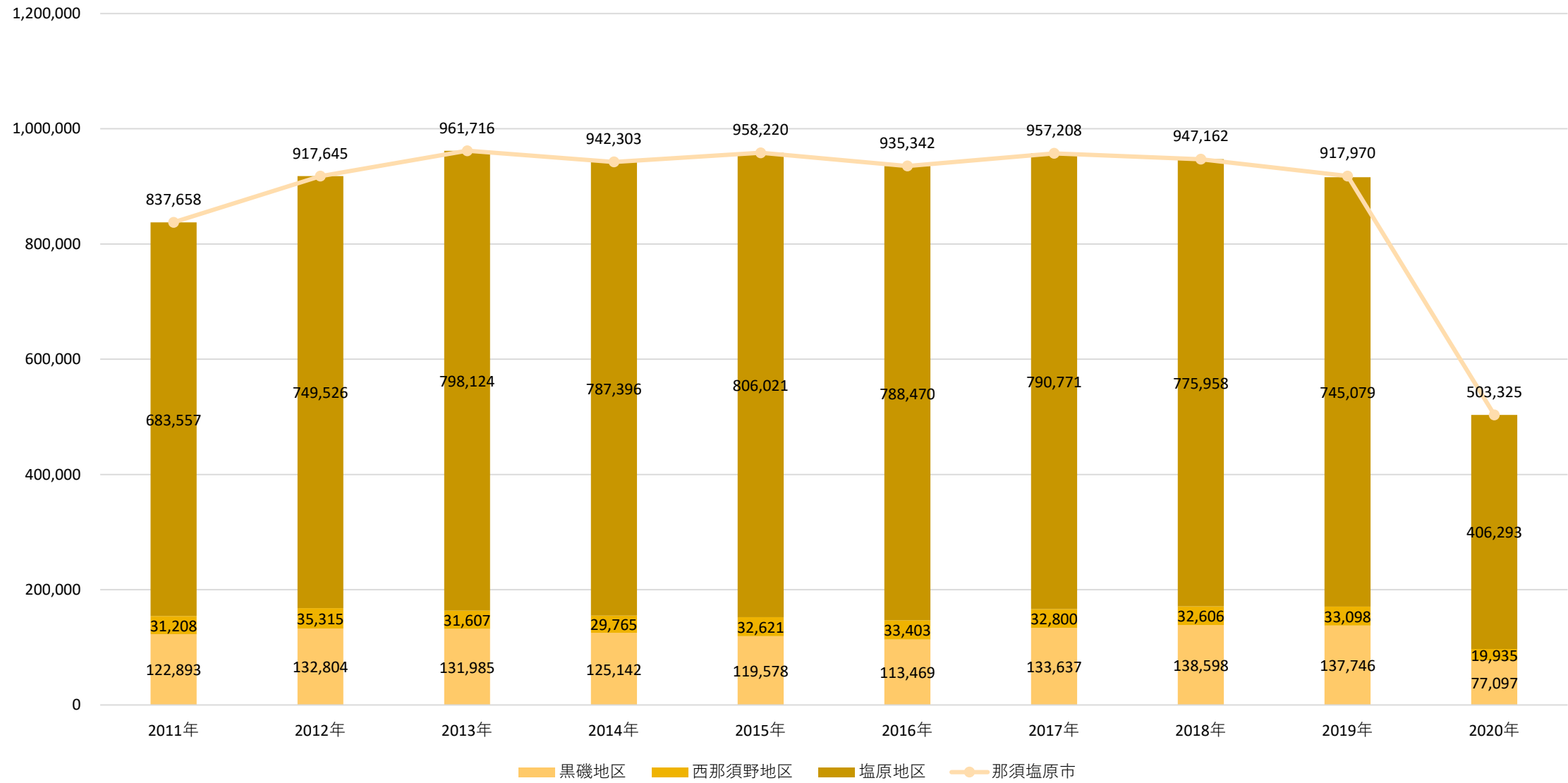
◆外国人宿泊者数

10,716人（2019年）	➤	13,000人（2027年）
----------------	---	----------------

視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

◆観光宿泊客数

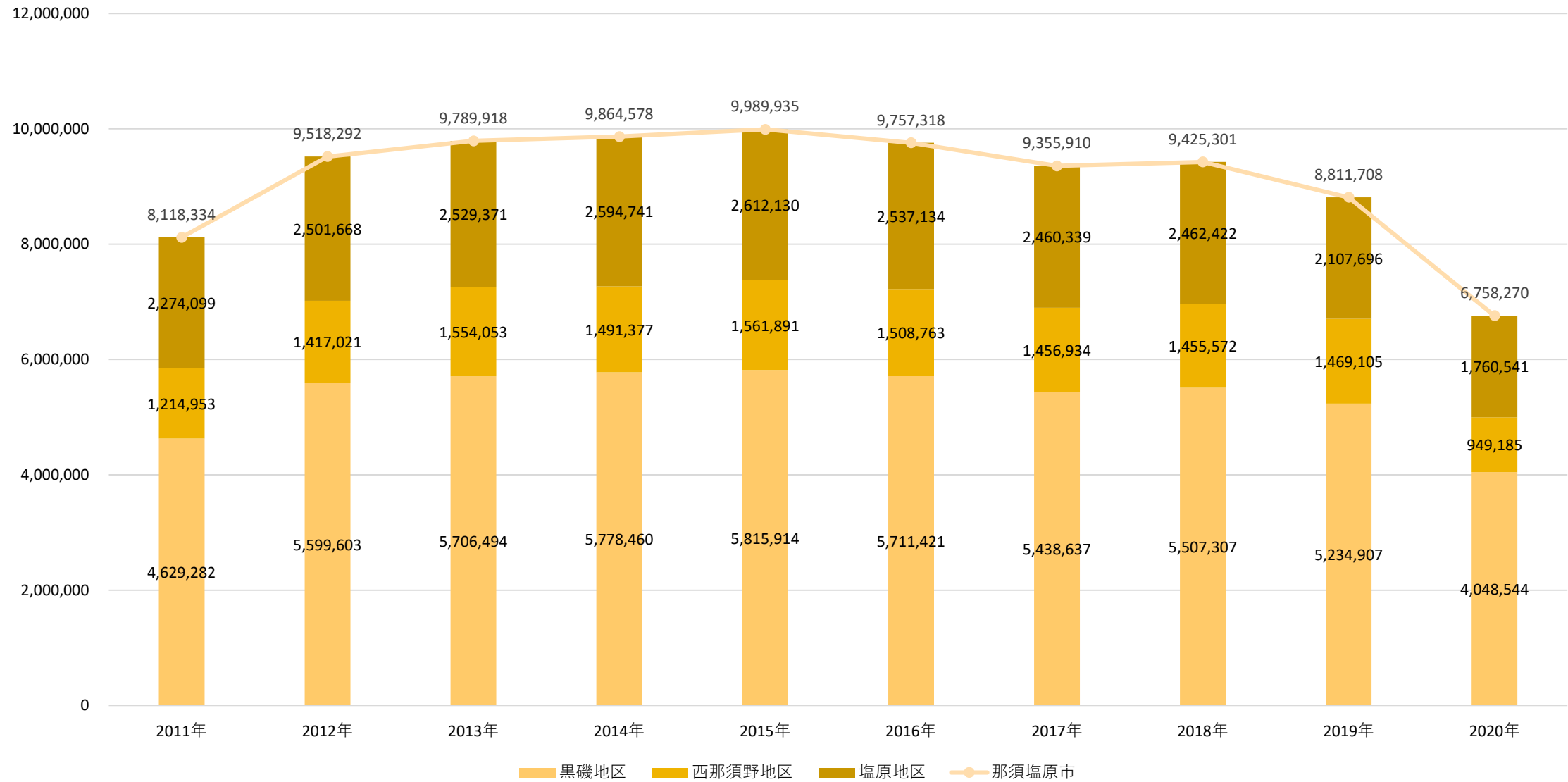
【単位：人】



視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

◆観光入込客数

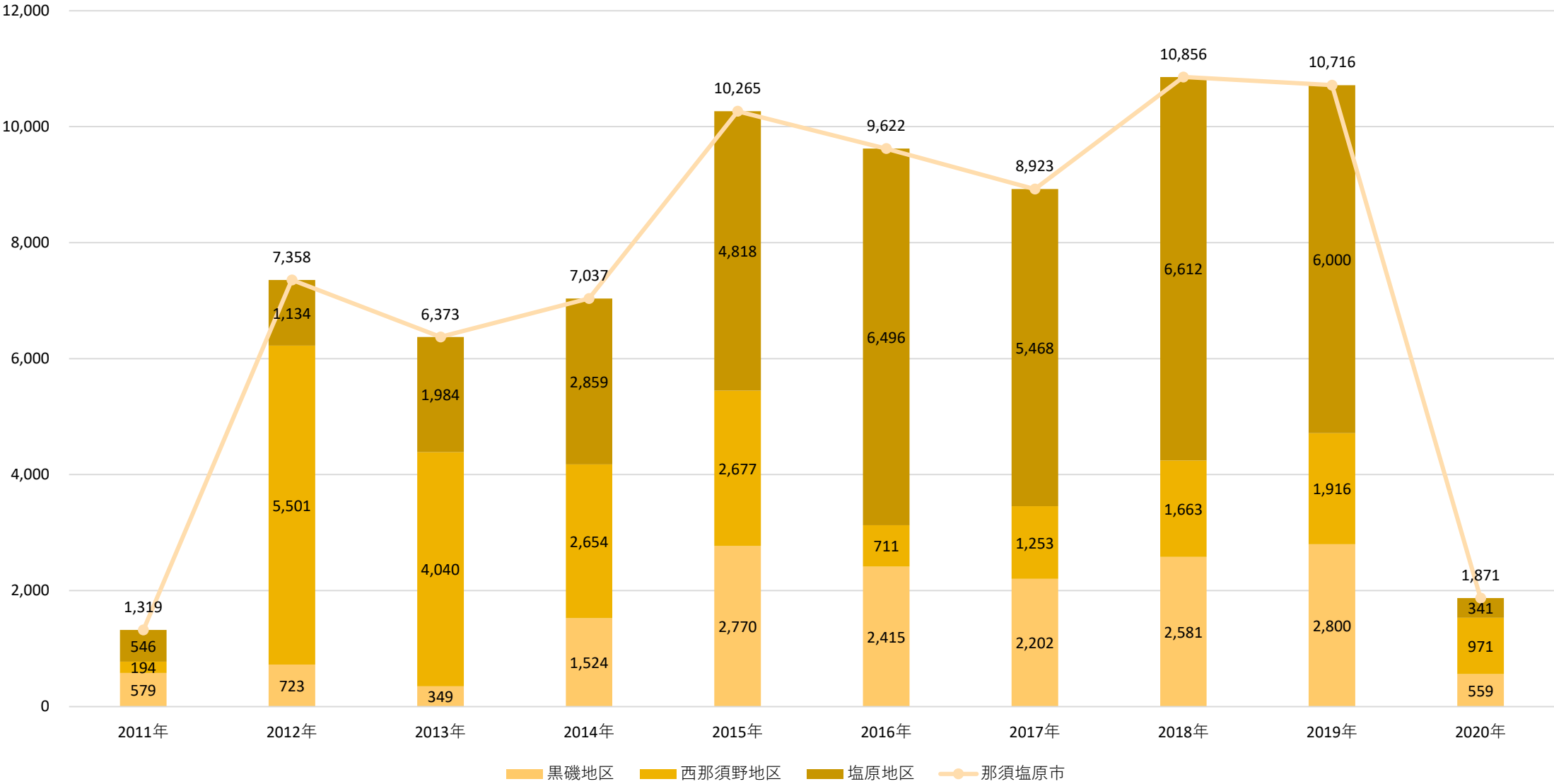
【単位：人】



視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

◆外国人宿泊者数

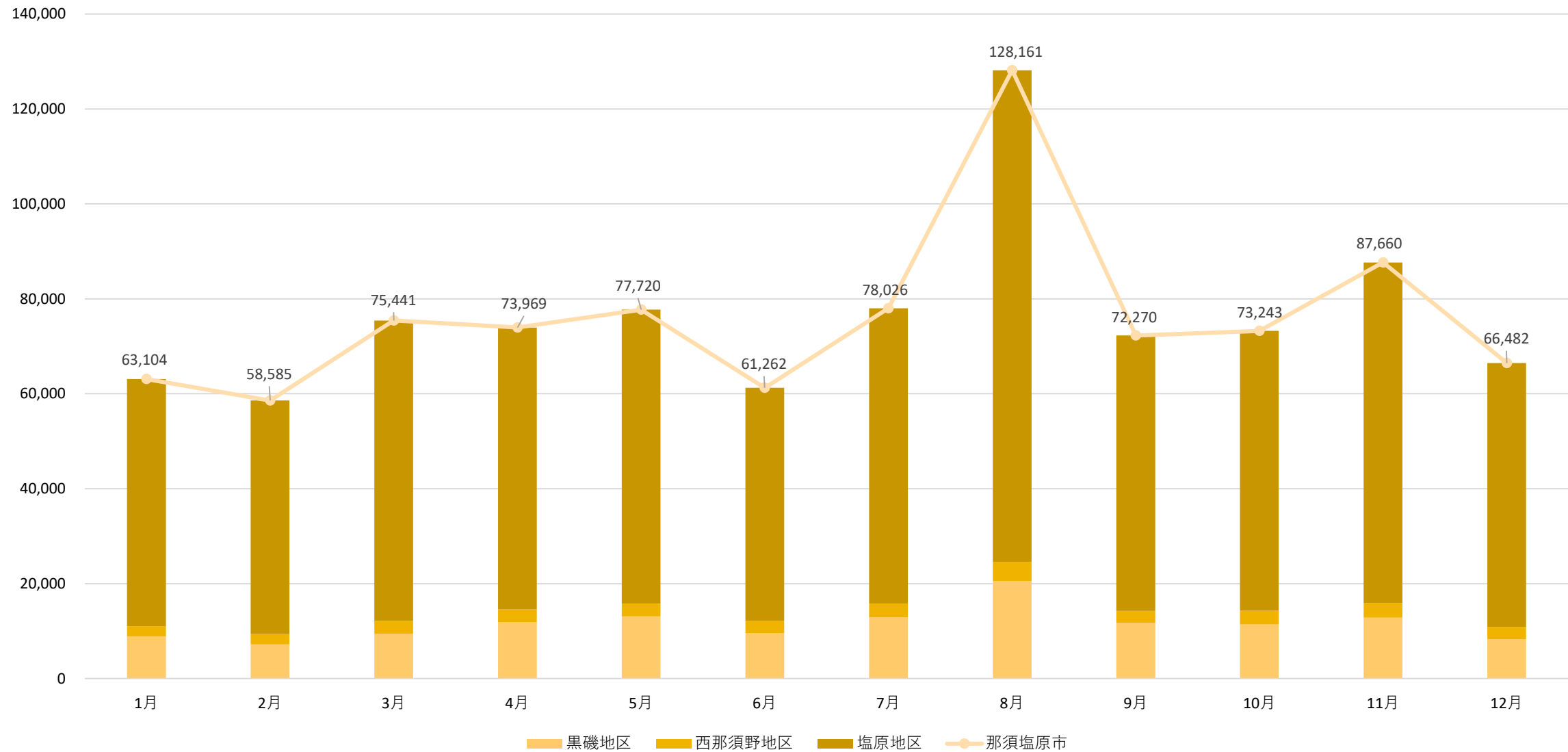
【単位：人】



視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

◆月別宿泊者数（2012年～2019年平均）

【単位：人】



視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

◆滞在時間と宿泊数

○滞在時間

	那須エリア	日光エリア	栃木県全体
2017年度	4時間37分	5時間18分	4時間07分
2018年度	4時間09分	5時間07分	4時間17分
2019年度	2時間02分	5時間02分	3時間04分
2020年度	3時間40分	5時間12分	3時間55分

○平均宿泊数

	那須エリア	日光エリア	栃木県全体	全国
2017年度	1.39泊	1.09泊	1.24泊	1.32泊
2018年度	1.32泊	1.15泊	1.21泊	1.88泊
2019年度	1.11泊	1.16泊	1.16泊	1.34泊
2020年度	1.29泊	1.10泊	1.19泊	1.33泊

※栃木県「栃木県観光動態調査」、観光庁「宿泊旅行統計調査報告」

◆1人当たりの消費支出額

	日帰り観光客				宿泊者			
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
那須エリア	9,438円	8,333円	8,869円	8,511円	35,049円	34,244円	25,402円	35,088円
日光エリア	7,661円	8,577円	9,362円	7,595円	35,153円	32,834円	25,378円	35,563円
県平均	6,492円	7,262円	8,402円	6,743円	33,441円	32,047円	25,270円	33,632円

※栃木県「栃木県観光動態調査」

視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

◆那須塩原市観光マスタープラン

SWOT 分析による那須塩原市の現状

強み (Strength) 首都圏からの近接性 (首都圏から車で3時間圏内) 高速道路のIC、新幹線駅が存在 個性のある地区で構成されたエリア (地区特性を生かした複数のターゲット設定が可能) 温泉 (複数種の泉質と保養湯治の歴史) 自然景勝地、日本遺産 (明治期の華族農場、開拓精神) 日本ならではの旅館文化体験が可能 農産品・食材、生乳生産額本州第1位 那須というネームバリュー クリエイティブな事業者集積の兆し 現代版開拓者 (革新者) の出現	弱み (Weakness) 没個性化 (優位性・差別化の弱さ) 延べ宿泊者数及び1人当たりの平均泊数 旅館の平均稼働率、1地点観光 (非周遊)、滞在時間の短さ、点在する観光資源 外国人旅行者 (宿泊者) 数の少なさ まちの活気不足 (社会的/経済的/物理的) 観光地としての整備不足 (ハード/ソフト) 外部評価の高い食事箇所不足 2次交通の不足 情報の一貫性/統一性/発信不足、連携不足 地域ぐるみで取り組む観光の意識不足 マーケティング上の課題 (戦略の欠如、脆弱な観光地経営体制、物理的環境・施設の整備不足、インバウンド対策不足、プロモーション不足、商品・サービスの開発/改良の必要性、人的資源の確保と質の向上)
機会 (Opportunity) 国際観光客数の増加 ウェルネスツーリズム市場規模の拡大 国の観光振興/インバウンド政策強化 訪日外国人旅行市場規模の拡大 訪日外国人旅行者 地方への移動増加 働き方改革、働き方・暮らし方の意識の変化 技術革新 (5G, AI, VR, IoT, ロボット, ビッグデータ) 健康志向、スローな暮らしへの憧れ	脅威 (Threat) 社会構造の変化 (人口減少、少子超高齢化) 自然災害、気候変動、パンデミック、資産バブル 旅行市場の変化 (国内旅行市場の縮小) ターゲット国地域の政治・経済状況の変化 免許取得者の減少 (ドライバー不足、自動車での観光需要が減少する恐れ) 雇用の確保困難



	強み (Strength)	弱み (Weakness)
機会 (Opportunity)	強み×機会 「健康志向、スローな暮らしへの憧れ」を攻略する『魅力的な観光』	弱み×機会 「訪日外国人旅行者」を取り込む『個性的な観光』
脅威 (Threat)	強み×脅威 「社会構造・旅行市場の変化や気候変動」にフレキシブルに対応しうる『持続的な観光』	弱み×脅威 ——

基本理念

- ・訪れる人、暮らす人、働く人の人生を豊かにする観光地域づくり
- ・ウェルネスなツーリズムの実現

視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

那須塩原市観光マスタープランにおける基本方針

基本方針1 持続的かつ競争力のある観光地域づくり

・地域資源の保全と活用をしながら、あらゆる人々（訪れる人、暮らす人、働く人）が地域に誇りや愛着のもてる持続的かつ競争力のある観光地域を創り続けます。

基本方針2 観光客の来訪促進

・顧客の視点（欲求、価値観、行動タイプなど）に基づいた来訪促進のための仕掛けや仕組み、集客イベントの開催、デジタルを始めとした情報コンテンツの作成と配信を行うことで、本市の魅力に共感するとともに、継続的・長期的な滞在を促進します。

基本方針3 観光客受入のための社会基盤の強化

・「賑わい」のある空間づくりや、「快適さ」の追求と「不便さ」の解消、「安心・安全」の管理と実践に必要なマニュアル策定など、ハードとソフトの両面で観光客受入のための社会基盤を強化します。

基本方針4 強靱な観光地経営基盤づくり

・観光地域づくりを担う人材の確保と育成、観光消費の拡大を狙った地域内及び周辺市町との広域連携の推進体制の強化、まちづくりとの一体化、安定的な観光財源の確保策の検討など、強靱な観光地経営の基盤をつくります。

那須塩原市観光マスタープランにおける数値目標

目標指標	単位	基準値（2019年）	目標値（2027年）
延べ宿泊者数	人	917,970	1,000,000
観光客入込数	人	8,811,708	9,500,000
旅行消費額（宿泊）	円/人	19,186	25,500
旅行消費額（日帰り）	円/人	5,357	8,900
来訪者満足度	%	34.4※1	39.0
		21.4※2	
来訪者不満足度	%	6.0※3	5.8
		7.4※4	
外国人宿泊者数	人	10,716	13,000

※1 5段階のうち5（大変満足）を選んだ人の割合（那須塩原市来訪者観光動態調査2019年）
※2 7段階のうち7（大変満足）を選んだ人の割合（日本交通公社「旅行年報2019」栃木県の数値）
※3 5段階のうち1～3（どちらでもない以下）を選んだ人の割合（那須塩原市来訪者観光動態調査2019）
※4 7段階のうち1～5（どちらでもない以下）を選んだ人の割合（日本交通公社「旅行年報2019」栃木県の数値）

視点② 那須塩原市の観光の現状と今後の取組

基本方針1 持続的かつ競争力のある観光地域づくり

・地域資源の保全と活用をしながら、あらゆる人々（訪れる人、暮らす人、働く人）が地域に誇りや愛着をもてる持続的かつ競争力のある観光地域を創り続けます。

基本方針2 観光客の来訪促進

・顧客の視点（欲求、価値観、行動タイプなど）に基づいた来訪促進のための仕掛けや仕組み、集客イベントの開催、デジタルを始めとした情報コンテンツの作成と配信を行うことで、本市の魅力に共感するとともに、継続的・長期的な滞在を促進します。

基本方針3 観光客受入のための社会基盤の強化

・「賑わい」のある空間づくりや、「快適さ」の追求と「不便さ」の解消、「安心・安全」の管理と実践に必要なマニュアル策定など、ハードとソフトの両面で観光客受入のための社会基盤を強化します。

基本方針4 強靱な観光地経営基盤づくり

・観光地域づくりを担う人材の確保と育成、観光消費の拡大を狙った地域内及び周辺市町との広域連携の推進体制の強化、まちづくりとの一体化、安定的な観光財源の確保策の検討など、強靱な観光地経営の基盤をつくります。

基本方針3 観光客受入のための社会基盤の整備

観光産業は地方創生の切り札とされ、全国各所で「グローバル化（インバウンド）」や「観光を通じた6次産業化」が模索されています。それに付随し、比較的容易に取り組みやすい誘客に向けた情報発信は重点的に行われる一方で、受入環境は十分に整備されていません。

本市が、世界にも通じる観光サービス基盤を強化するためには、あらゆる観光客に対し、快適で、安心・安全が約束されることはもちろん、社会的要請に応じた環境整備、那須野が原の玄関口である那須塩原駅前の空間づくり、唯一無二の温泉街を目指すためのブランドコンセプトに基づいた再整備が欠かせません。また、人の移動をサポートする2次交通対策にも計画的に取り組む必要があります。さらに、不確実な時代の中で、気候変動等に起因する自然災害の発生や社会情勢の変化にもしっかりと対応できるよう観光施設維持管理計画や災害時対応マニュアルを策定し、実践していきます。

施策1 「賑わい」のある空間づくり

那須野が原の玄関口である那須塩原駅のビジョンに基づいた空間づくりや戦略・コンセプトに基づいた温泉街の再整備により、賑わいを創出します。

- 道の駅の整備及び周辺環境との連携（青木地区）
- ブランドコンセプトの明確化による温泉街づくり
- 那須塩原駅周辺まちづくりビジョンに基づく駅前空間の創出
- 空き店舗・空き家の活用

施策2 「快適さ」の追求と「不便さ」の解消

点在する観光スポットを周遊し、滞在を促すための観光案内や交通アクセスの利便性や快適性の充実に努めます。

- 2次交通の整備
- 観光案内の充実

施策3 「安心・安全」の管理

市有観光施設の在り方を検討するとともに、市有観光施設の計画的な維持修繕・更新や大規模災害時における観光客への対応について取り組みます。

- 観光施設維持管理計画の策定
- 災害時対応マニュアルの整備

施策4 社会的要請に応じた環境づくり

社会的要請に応じた取り組みを行います。

- 感染症対応マニュアルの策定及び実践
- ワーケーション受入環境の整備

環境保全



遊歩道整備



空き店舗・空き家活用



景観形成

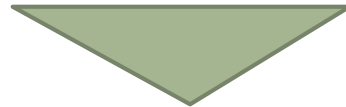


観光先進国に向けて

- 国は観光を地方創生への切り札、成長戦略の柱として位置付けている。地方創生に資するためには訪日外国人旅行者や日本人国内旅行消費額の増加が不可欠であり、そのために受入環境の整備や観光プロモーション等が求められている。

ウェルネスなツーリズムの実現に向けて

- 「那須塩原市観光マスタープラン」に掲げる基本理念の実現に向け、4つの基本方針に基づく施策を実施していく。特に観光客受入の社会基盤の整備として、「社会的要請に応じた環境整備、那須野が原の玄関口である那須塩原駅前の空間づくり、唯一無二の温泉街を目指すためのブランドコンセプトに基づいた再整備」を実現する。



観光地としての新たな財政需要の発生

2 那須塩原市の財政状況

視点① 現在的那須塩原市財政状況

◆収入の内訳（令和元年度決算）



・・・一般財源

使いみちを特定されず、どのような経費にも使用することができる財源

一般財源総額 282億7,464千万円
(令和元年度決算)

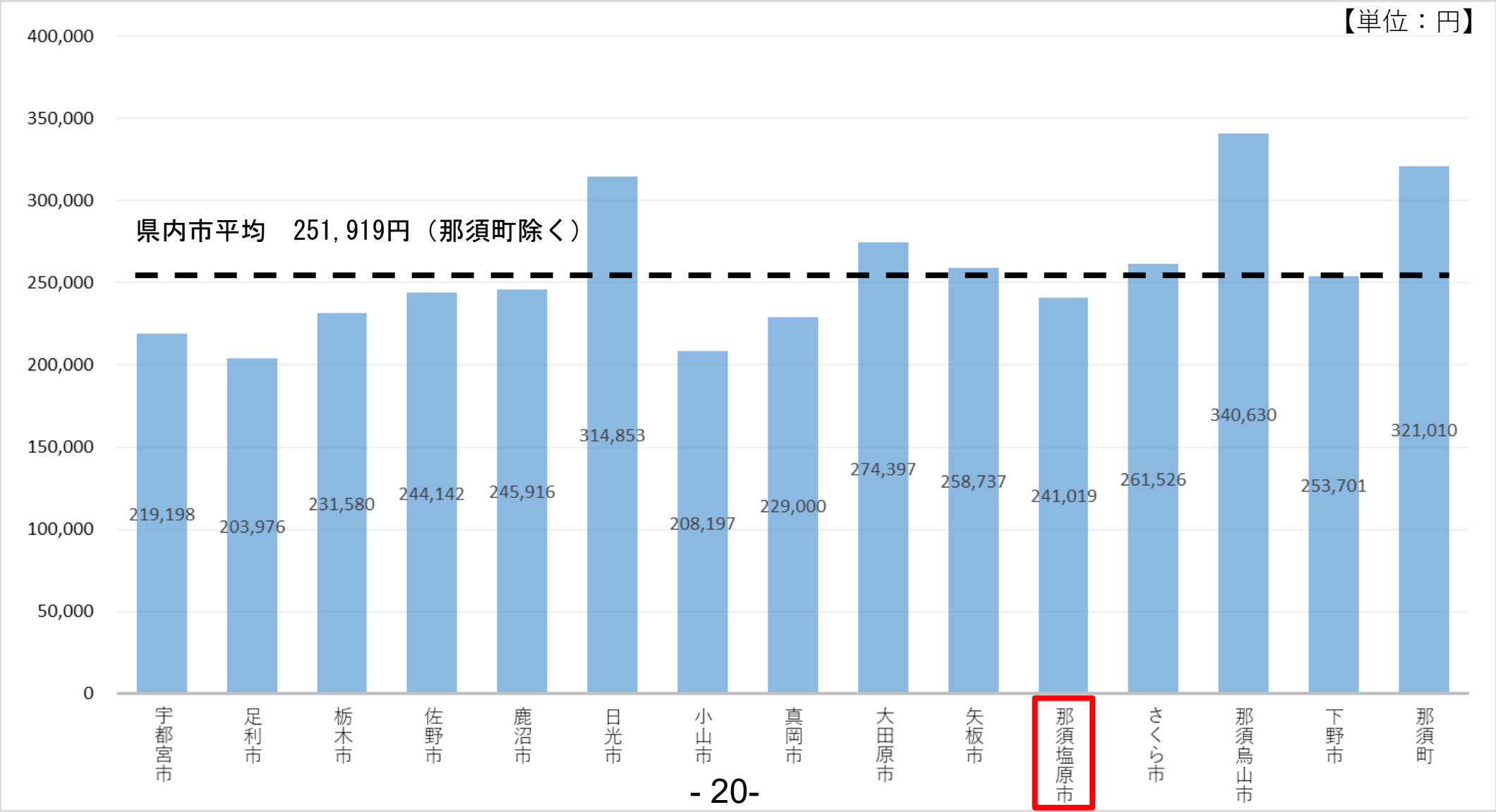
視点① 現在的那須塩原市財政状況

◆県内市一般財源額（令和元年度決算）



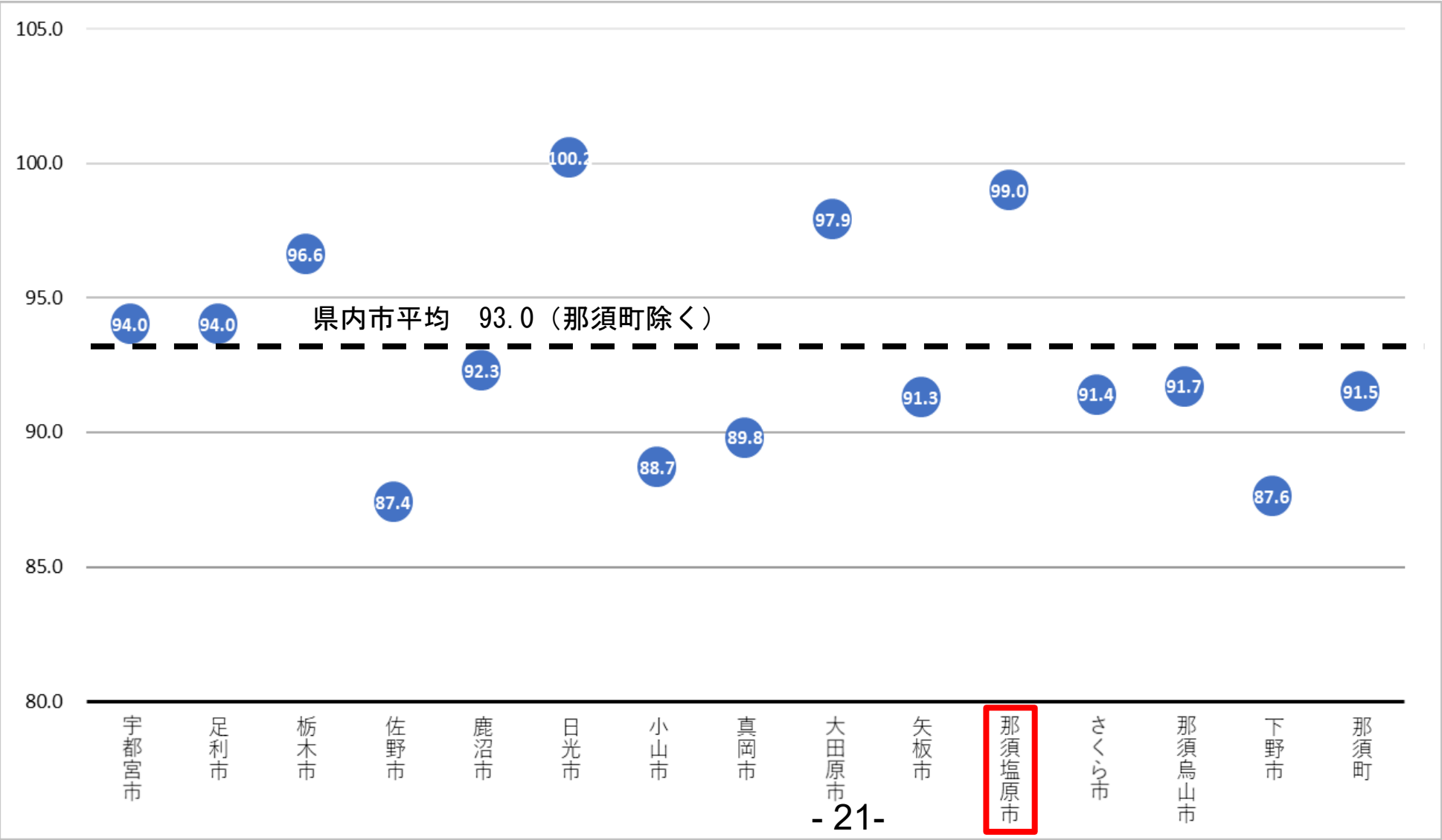
視点① 現在的那須塩原市財政状況

◆県内市一般財源 人口一人当たりの額（令和元年度決算）



視点① 現在的那須塩原市財政状況

◆県内市経常収支比率（令和元年度決算）

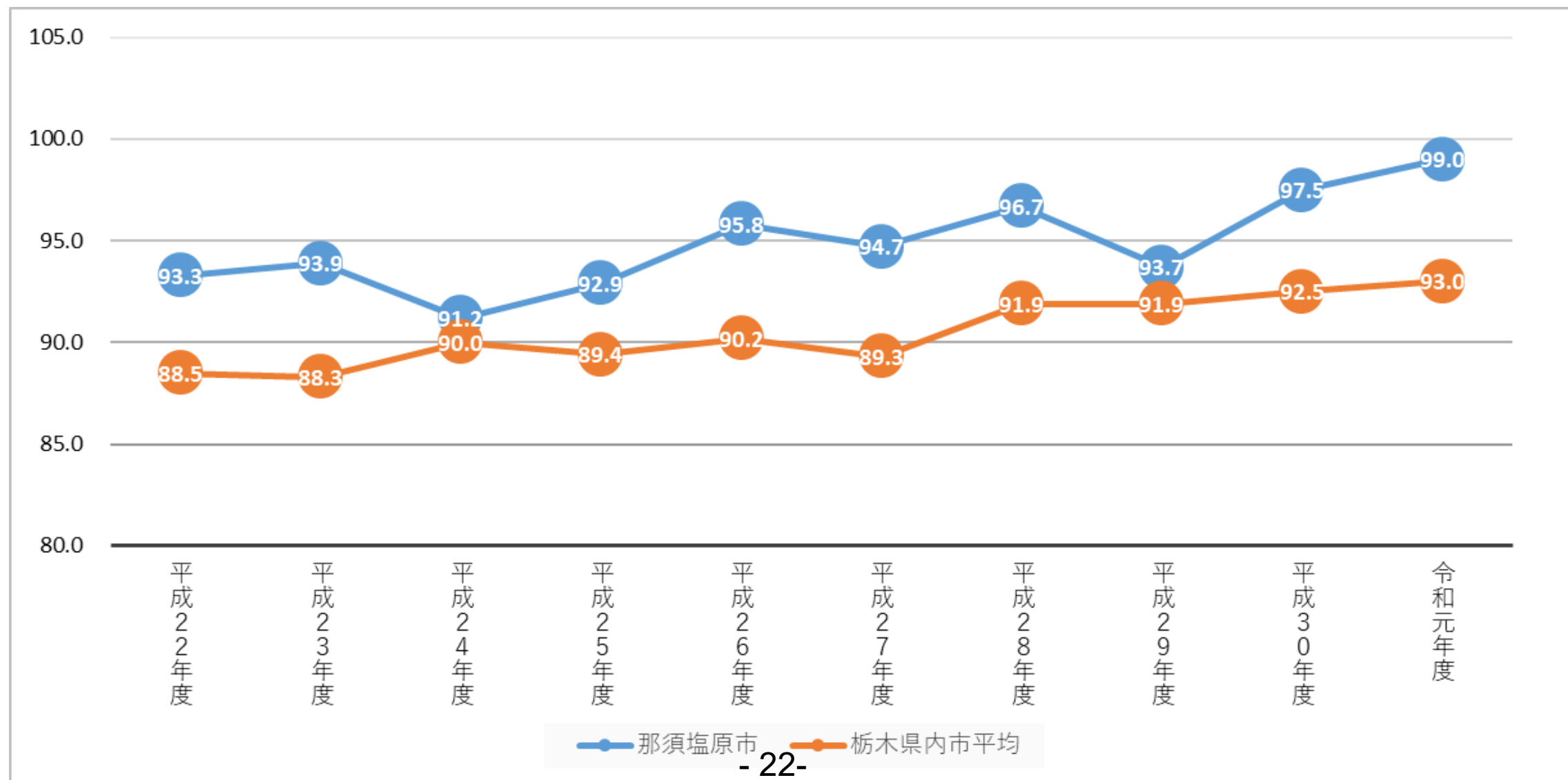


経常収支比率とは・・・

人件費や扶助費、公債費等の経常的な経費に、市税や地方交付税等の一般財源がどの程度充てられたのかを見るもので、財政構造の弾力性を判断するものです。数値が低いほど財政運営に弾力性があり、政策的な経費に使えるお金が多くあることを示しています。

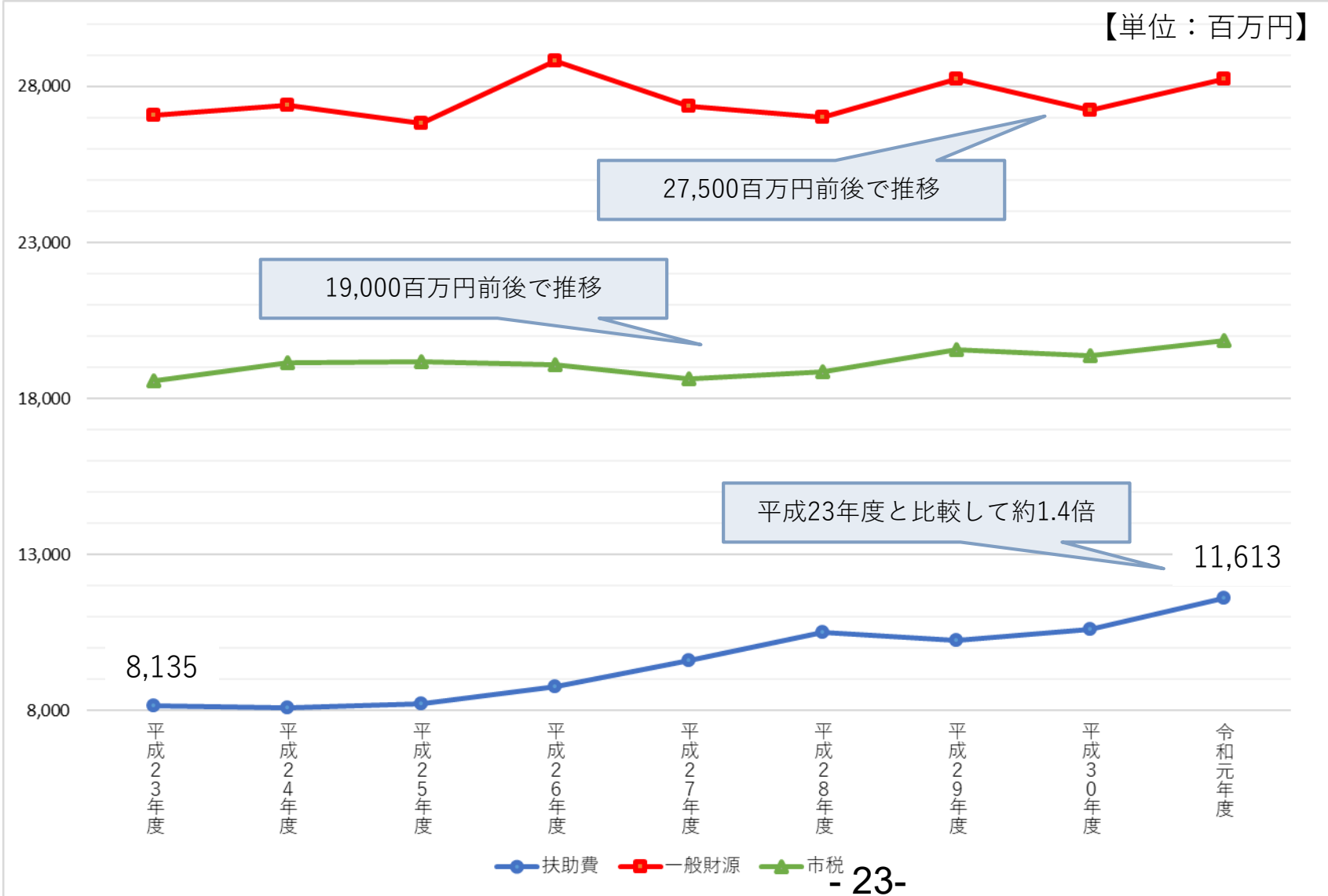
視点① 現在的那須塩原市財政状況

◆那須塩原市経常収支比率推移



視点② 将来の財政見通し

◆那須塩原市歳出決算状況（一般財源収入及び扶助費）



○市税及び一般財源収入が横ばいである一方、障害福祉、子育て支援関係の社会保障関係経費の増により扶助費は右肩上がりで増加。

○今後も障害福祉、子育て支援関係経費は増加の見込み。

扶助費とは・・・

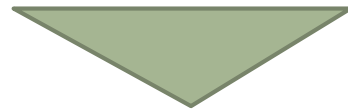
社会保障制度の一環として、児童・高齢者・障害者・生活困窮者などに対して国や地方公共団体が行う支援に要する経費

現在の財政状況

- 人口一人当たりの一般財源額は、県内平均を下回っており、かつ経常収支比率は高止まりしている状況である。財政構造に弾力性がなく、政策的に使える財源が少ない。

将来の財政見通し

- 社会保障関係経費の増加により、扶助費は右肩上がりで増加してきている。また、今後も増加していく見込みである。一方、一般財源額は一定額で推移してきており今後も同様に推移する見込みである。



現状は財政運営ができているが、新たな政策には対応できない。